

第5回旭川市合葬式施設検討会議

- 1 日時 平成27年12月2日(水) 18時30分～20時30分
- 2 場所 旭川市役所 第三庁舎保健所棟1階 講座室
- 3 出席委員
 - (1) 出席委員9名
雨尾委員, 石坂委員, 佐藤委員, 杉野委員, 玉手委員, 信木委員, 三上委員,
三島委員, 宮嶋委員
 - (2) 欠席委員1名
箭原委員
- 4 事務局
事務局(市民生活部)4人
今野市民生活部長, 林市民生活課長, 成田市民生活課長補佐, 鈴木
- 5 会議の公開・非公開
公開
- 6 傍聴者の数
0名
- 7 会議資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 共同利用できる合葬式施設の整備に関する意見等(案)

第5回旭川市合葬式施設検討会議の記録

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 前回会議の確認等

事務局から会議資料に基づき説明を行った。

(2) 意見交換

発言要旨のとおり。

(3) その他

発言要旨のとおり。

4 閉会

〈発言要旨〉

(座長)

こんばんは。本日もお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。前回会議では、共同利用による合葬式施設の整備に関する意見等という意見集の骨子について意見交換をさせていただいた。その際に皆様からいただいた意見を、私の方で整理し、案としてまとめるよう事務局に指示した。本日はこの意見集の案に基づいて意見交換をしていきたい。それでは、議題の1の前回会議の確認として、意見集の案について事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

(事務局から資料に基づき内容説明。)

(座長)

今、事務局から、意見集の案について説明があったが、前回会議で皆様からいただいた意見をできる限り盛り込み整理した。前回会議で総論、各論の話題になったが、今回、検討会議から出す意見集は、意見交換した結果として全体的にまとまった合葬式施設のイメージを市に伝えるという趣旨であったと思っている。そこでこの意見集には、方向性として皆さんの共通した見解である、市民のお墓、将来に負担を残さないという意見などを共通意見として、樹木葬などについての意見は個別意見として、どちらの意見も貴重な意見として意見集に記載している。樹木葬の形については、委員それぞれ思いがあるかもしれないが、地表部分では墓碑の代わりにシンボルツリーを植えるのか、樹林なのかなど、埋蔵方法にしてもカロートの中に遺骨を合葬するのか、木の根元に別々に納めるのかなど、いろいろな組み合わせが考えられるが、事務局から説明があったように合葬式施設の検討を踏まえた樹木葬の内容として7ページに個別意見として記載している。前回会議では、どんな施設ができるのかはっきりしてほしいという意見もあったが、趣旨としては皆様の意見をまとめたものを旭川市に伝える意見集にできればよいと思っている。施設の概要については、前回の骨子案を更に具体的なものにするために、施設のイメージを追加した意見集の案にすることが今回の会議の目的だと思う。ほかにも意見交換の中では、整備後の計画について意見もあったので、それらの内容についても盛り込んでいる。

結びに記載しているが、この意見集を参考にして市民が安心して暮らすことができる一要素として合葬式施設を整備してほしいという期待が伝わるものになればと思う。

本日の会議が第5回目になり、当初の予定では5回程度ということであった。委員の中には、意見交換を続けてほしいという方もいるかと思うが、会議の共通認識

として、早期整備が望まれているという現状では検討会議として旭川市に意見集を提出する必要がある。本日は意見集に記載している共通意見の確認，そして個別意見にも追加してほしいというところがあれば，その点について活発に意見交換していただきたい。そのような形で本日の会議を進めてよろしいか。

(各委員)

はい。

(座長)

それでは，皆様から意見をいただきたいと思うが，その前にこの意見案について質問があればお願いします。

(各委員)

(特になし。)

(座長)

質問がなければ，まず意見集について一言ずついただきたいと思う。

それではお願いします。

(委員)

大体，自分の考えているような状況でまとまっており，特にこれ以外の意見はない。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

これ以上のことについて踏み込む検討会議ではないと思うので，概ねこれでよいと思う。

7ページに記載されている市民のお墓であるためには，市民のよりどころとなり，施設を訪れることで心が安まり，そしてそれは豪華ということではなく簡素であってもシンボル性が高い施設とすべきであることとある。これは単純にいわゆるお墓的なお墓というよりも，ある程度デザイン等の芸術性のあるようなものであるべきだと感じている。

それと参考であるが，この前見たテレビで，共同のお墓にお骨を納める際に和紙の袋に入れて，マンホールぐらいの大きな穴に納めていた。和紙はもともと紙や木なので土に帰る。そういった意味で，かさばらないでよく，雰囲気もよいと感じた。

それと，旭川に生きていたということが，どこかに記されたらよいと最初に思っていたが，人間が作ったものはいずれ朽ちていく。場合によっては，誰かが入っているという理由で絶対入りたくないという人もいるかもしれないが，それをこの場で検討していたら大変なことになるという思いもした。ITやパソコンなどが発達した時代であり，例えば，私の孫たちが合葬式施設を訪れたときに，おじいちゃん

がいつ頃亡くなったかを確認することができ、ボタンを押すとお参りするときに名前などの映像が出てくるというのものもあるかと思う。できることであれば、沖縄のようなプレートぐらいはあってほしいという思いはある。以上です。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

意見集の案は、よくまとめていただいたと思い読ませていただいた。

4 ページの、点で三つ目のところに、いわゆる合葬式施設はということが書いてある。現時点では最も望ましい施設であるということであるが、私の読み方によるものなのかもしれないが、自分でお墓を持ちたいという人も相当数いると思うので、今の傾向として合葬式施設が、ほとんどの人にとって一番よい方法だとまとめているように受け取れるが、その表現はどのように受け取ればよいのか。

(事務局)

今のお話について、確かにほかのお墓も含めて、合葬式施設が一番よいと受け取られる方もいると思うが、座長から頂いたお話はそういう趣旨ではなく、お墓を守っていくという考え方は大切にしながら一方では選択肢を広げるという趣旨であり、これは市長も以前に言っていたことである。今後、お墓の形がどのように変わっていくか予想できないことなどを座長と話している中で、従前からあるお墓の形態ではなく、承継に心配のある方々を対象にお墓について考えたとき合葬式施設は、現時点でベストとは言わないがベターではないかということを書かせていただいた。いずれにしても誤解のないように今の意見の趣旨を踏まえて直していきたい。

(委員)

最も、という部分が少し気になった。

お墓を作るとしてもなかなか用地の確保も含めて難しい状況にある中で、本当は自分でお墓を持ちたいという方で、市の合葬式施設の利用について考えている人も相当数いると思う。そういう方たちを前提にするのならば合葬式施設を市民のほとんどの人が利用するという受け取られ方をしかねないと感じた。以上です。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

7 ページに、施設概要が記載されており、これまで自分の考えをいろいろな形で述べさせていただいた。特に樹木葬について、かなり強引な発言をした部分も多々あるが、そういった中で施設の見学も含め、最終的な気持ちを自分なりに考えた。そのときに、樹木葬にこだわって私はこの会議に参加したという趣旨を以前から口にしてはいるが、現実問題として特に北海道、旭川、雪の中という部分においては、

本州と違い樹木葬にこだわっていても難しいという感じがしたことは前にも話した。最終的に市民のお墓として、何か違った形で考えられないかと思ったところ、樹木葬も一つの考えとして述べたが、それができない状況のときにお墓の原点を頭に描いてみた。そのときに大昔の言葉で言えば古墳というものがあり、それは偉い方が入ったのかは分からないが、古墳とは私たちが学生時代に歴史の背景などを勉強してきた。今この施設の話について私として最終的にひらめいたものを述べておきたい。江別市や道外施設の映像を見たとき、特に本州では素晴らしい建物のようなものであったが、それを旭川で真似するのは金額的に難しく、そうしたとき7ページにも触れている豪華でなくても簡素であって、なおかつシンボル性が高いという部分について提案したいのは、古墳という形の墓標がよいと思う。古墳であれば、前方後円墳などいろいろな形に変形できるということが調べて分かったが、繋がりを増加しなければならないときには、おかしくない形態になるのではないかと感じた。樹木葬とプラスして、それが今と違う方向に進んでいくのであれば、墓誌の形をほかの施設と同じ形で作るのでは旭川のポイントとなるシンボル性はなくなってしまうが、それを手短な形で考えたときに古墳であれば全国にも、恐らくないと思う。それを旭川で成し得たとすれば、全国に先駆けた新しい合葬式の形態の一つになり私としては嬉しいと思った。特に市民のよりどころ、そして簡素であってもシンボル性が高く、公園的要素などを検討する中で、学習見学や一般の方でも何か変わった施設が旭川にできたと見学に来てもらえるのであれば、そこに有効な道も開けると考えた。最終的に自分の意見として樹木葬と古墳の形を、提案したいというのが私の結論です、以上です。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

全体の流れはこれで問題ないと思っているが、3箇所、気になったところがあった。

先ほど他委員も指摘された、最もという言い方は変える必要があると思う。それと7ページにある、豪華という言葉はいらないのではないかと思う。簡素な中にもという文言の方が、より分かりやすいという気はした。

それから8ページにある、個別意見の二つ目のお骨を個別に納めることについて、利用者の希望に応じて納め方に差を設けるという表現しているが、この差という言葉が、差別などの意味合いからも昨今あまり使わないという気がした。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

非常によくまとまっていると思う。違う段階になってしまうのかもしれないが、遺骨の納め方について、江別市には非常に申し訳ないが、何かに包むわけでもなく骨壺から直接入れるという形は、人間の終わり方として、あまりにもさみしいと感じた。あれを見たときに人間の尊厳について感じたため、やめてほしいと思った。それと家族が何人かいて一緒に入りたいという場合に、一つずつバラバラに入れるのではなく、他委員が言っていたように、時間が経てばなくなる紙の袋のようなものに、二人、三人という形で納めるような尊厳を持ったやり方をしてほしいと感じた。

それと樹木葬についてこだわっていたが、それは自然に帰り、家族がいた場合にも一緒に包んで納めるという形にしてほしいと思っていたからである。その方がバラバラと入れるよりも尊厳の部分では樹木葬の方がよいと思っていた。樹木葬は、勉強すればするほどすごく深いものがあり、シンボルツリーだけではなく、公園の中に広く納めるというものもある。何十年経ったら木が駄目になってしまうという意見があったが、それは北海道に見合ったやり方があると思う。単なる樹木葬の木に納めるというものだけではなく、いろいろな形があると思う。塚のような合同墓もあって結構だと思し、早く整備しなければならないのかもしれないが、そのほかに時間をかけてもよいと思う。管理にもあまりお金を掛けないような方法を少し勉強して将来的に樹木葬のような別な形のもをもう一つ整備して、将来的に二つのタイプとしてやってほしいと考えていた。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

今日皆さんが、それぞれ発言された意見は今まで大体出てきた意見だと思う。それは、この意見集に大体まとめられており、最後から2ページのところには本市にふさわしい施設形態とするようにと書かれている。ここまで来たらあとは市と専門家に任せるのが、よいと思う。私も、周りからいつできるのかと聞かれることが多くなり、市民ニーズが高まっている中では、二つ目があるかは定かではないが、まず一つ早期に作っていただきたいと思う。

これは余談になるが、スリランカでお葬式を見たときに、お骨はどこに埋めるのか現地の方に聞いたところ、火葬する場合もあるし、土葬の場合もあると言っていた。村には大体この辺に埋めようという所があると言っていた。一見粗末な話に聞こえるが、スリランカの方というのはもの凄く仏様を大事にしている。うちのお墓も函館にあり、本家のため大きなお墓に納めているが、最近はお骨がいっぱいになってきたためまとめて納めるようにした。だから信仰心がないということではなく、一族こぞってもの凄く仏様やお墓を大事にしている。個人的な考えとしては、使用

料が5万円は安すぎるのではないかなどはあるが、ここまで来たら市の方に任せたいと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

皆さんの意見と近いが、やはり早急にということが市民から一番ニーズが多いところであり、樹木葬とか個人のいろいろな意見はあると思うが、まず今まで検討してきた内容のものを早急に作るということが一番必要だと思う。

(座長)

皆様から御意見をいただいたが、事務局で何かありますか。

(事務局)

いろいろお気づきの点を意見としていただきました。その中で、この案を修正していきます。基本的にこの意見集の形になると思うが、納め方の問題など細かなところは今後はっきりさせていかないと、最終の施設形態が決められないと思っている。市としても意見集に記載されていることはイメージできるので、その内容を参考に進めていきたいと考えており、できるだけ早く整備してほしいということについても、これほど反響が大きいものだと改めて感じたが、早く整理ができるようなものにしても、手を抜いてよいというものではないと思っている。

市民生活課では、市営墓地の管理も担当しており、合葬式施設を含めて旭川市のお墓についてどのように考えていかなければならないかについては、この会議を通じて座長からも指摘を受けながら、意見集の中にまとめた形にしている。

繰り返しになるが、有力な候補地として意見が出ている旭川聖苑で考えたとき、樹木葬については必ずしも用地が確保できるものではなく、委員からも将来的に考えるときがあればという意見もいただいたが、意見集にはその内容についても記載されているので、それらを最終的に整理していきたいと思っている。

また、委員から指摘があった合葬式施設が全てで一番よいと受け取られるという表現については、課題や現状認識も改めて見直した中で変えていきたいと思っている。古墳の意見もあったが、こちらについてはシンボル性の話や、市民から愛されて広く受け入れられる構造物という表現などの中に要素として含まれていると思う。施設のデザインについては、専門的な見地から客観性や多くの市民の方から理解されるものを検討していくことが、市民のお墓として旭川らしさを出すために必要だということも意見集に記載されており、今後より具体的に考えていこうと思っている。

(座長)

ありがとうございました。ほかに発言、意見などはございませんか。

(委員)

これ以上意見を聞いていたら、最初の意見交換に戻ってしまいそうな気がする。樹木葬の話に集中している部分があり、最初の目標として、旭川市に生きた証として合葬式施設で市民と一緒に眠るという大前提があったと思う。個別の好みにおいて、作りたいものを言っていたら、一緒ではなくなる。私はかしわの木がよい、桜の木がよいと言っていては目的から外れてしまう。皆さんが個人の希望として、これもほしい、あれもしてほしいと言っていたら作れなくなってしまう。

今回の目標について、市民と一緒にのお墓に入って旭川に生きた証を残すということであり、名前を墓標に作るかなどは今後の課題だと思う。私は一つのお墓に入るという意味では、今回は樹木葬まで発展しない方がよいと思う。

(座長)

ほかに発言、意見はございませんか。

(各委員)

なし。

(座長)

それでは意見交換は以上といたします。

本日の皆様からの意見などを再度私の方で調整、整理を行い事務局に案を修正するよう指示し、完成に向けた作業を進めていきたいと思う。よろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(委員)

年間の見込み数はどの程度だったか。

(事務局)

意見集の中では、現地視察をした札幌市、江別市の数字を参考に考えていくことと記載されているが、アンケート結果を踏まえた需要予測や、施設の使用年数などを基に計算していくことが考えられる。

札幌では年間約600体だったが、単純に人口で案分できるものではないと思う。例えば20年、30年、50年という使用期間をある程度決めて、それに見合う大きさにすることになると思われ、その数字が使用料に関連してくると思うが、その辺の事務的な話についても、私どもで早急に整理していきたいと思う。

この会議は5回程度を予定していたが、今日、意見をいただいた部分の修正が必要なため、修正後改めて皆様に確認をさせていただきたいと思う。

また、今回の会議は、市長から聞かれているものであり、市長に意見集を提出する機会を作るに当たり、皆様に同席いただくのかなどは日程の調整も含めて決定後、案内させていただく。

(委員)

文言の修正だけであれば、全員で集まらなくても座長と事務局で整理してよいと思う。

(事務局)

座長と相談し、改めて連絡させていただきます

(座長)

以上をもちまして本日の議題を終了します。委員の皆様、長時間にわたり熱心な意見交換をいただきありがとうございました。